

# 夕刊 警城時報

行發日四一十  
編輯兼發行 岡田 弘成  
印刷所 警城時報社  
發行所 警城時報社  
一部金貳圓 一月金卅圓  
廣告料 一行十四字 日五十五錢  
日刊(日曜祝祭日) 週日休刊

## 寄付金へ纏まれば

### 明年度縣豫算に計上

#### 平市の縣立工業學校

平市の縣立工業學校設立問題につき伊藤助は十二日出願し、當局と種々打合せをなし、歸平し、當局では平市に於て、地一萬五千坪と建設費八十萬圓を負擔するならば明年度豫算に計上してよいといふ意向を明示してゐる。市では直ちにこの龐大な建設費の寄附募集に取りかゝることになつた。

## 民政部會

候補者を詮衡

石城民政部會(比佐派)では十三日午前十一時から南町同俱樂部で役員會を開き、今秋の縣議選舉對策を協議の結果、来る十九日午後一時から同俱樂部で總會を開き、具體策並に候補者を決定することにまつた。

## 難波船員死體漂

去る五日久ノ瀨沖合で難波したから日英會談を中心とした現下、東京市芝區吉田國兵衛氏所有の國籍船「難波丸」の船員死體は四倉港後、座談會に移り、會衆百五十餘名で、中十二日松下萬之丞が久名の名で左の決議文を首相、陸海軍大臣に打電した。

## 決議文打電

外交座談會出席者  
市内各種團體合同主催、外交座談會は十二日夜公會堂日本間で開催、外務省顧問大谷孝太郎氏、神職會市支部聯合主催時局講

## 神職會講演會

神職會市支部聯合主催時局講

## 蓮沼縣議

縣參事會として前後五十二日

## 團體優勝は第二分會

炎熱下の熱戦郷軍武道大會

郷軍平市聯合分會主催第二回武道大會は十二、十三日射撃は神谷村東部射撃場、軍刀は平第一小學校、銃剣術は郷軍南校で開催、銃後若人の意氣高らかに炎熱下に接戦を演じ、團體競技では第二分會に凱歌が上つた、各種目成績左の如し

- 第一分會、3
- 第二分會、2
- 第三分會、4
- 第四分會、5
- 第五分會、5
- 第六分會、5
- 第七分會、5
- 第八分會、5
- 第九分會、5
- 第十分會、5

に亘り支那各地にある郷土部隊慰問旅行中であつた縣議連沼龍輔氏は十五日午後二時五十分着、列車で歸平、同日午後三時から青沼市長等主催の歡迎座談會が公會堂で開かれる。

## 蠅取競技

高木喬氏主催の第七回懸賞蠅取り大會は十二日終つたが捕獲数五十三万三千八百八十四匹、抽籤の結果入賞者の如し

## 新田町も電髪法度

組合から藝妓連へ達し

午後六時から小樽市長、商工會議所會頭の歡迎晚餐會に招かれ、第二日は十二日午前九時小樽聯合會、バスで市内を視察の上郊外海濱風景地方を遊覽、同所で會員廣告研究發表と委員報告があり、晝食後定山温泉に向ひ、同ホテル宿泊懇親會に臨む、十三日午前十時解散

## 日本廣告聯盟大會

森川、永山氏出席

平廣告研究會のなかや店主永山小平、レストランサン主森川泰一郎兩氏は十一、二兩日小樽市に開かれた日本廣告聯盟第十一回大會に出席、

## 小川江筋

四倉署では

浦村上仁井田向鈴木某(五三)村公會堂に於き午前中、理事會に引つゞき午後から聯盟外三名を檢舉取調へ引つゞき、大會に移り、同三時から五時村から三十余名を召集、懇親會を開き、理事會及委員會を取調へてゐる。

## 上海租界地を歩く

滿支視察の旅

石黒君が迎へて來て呉れた蘇州河の向側租界地にある台灣銀行に向ひ、正金銀行、三井、三井、朝鮮の各銀行が堂々と並んでゐる。前面は通りを隔て、黄浦江である。原色の軍艦〇〇の巨体が偉風堂々と四遊を浮んでゐる。何とも云へぬ感激である。事變當初、幾度か敵の擲弾、砲撃を受けたさうだが、微動もなし、實に天祐神助である。白色の軍艦がある、アメリカの旗艦だと云ふ、其他

清野支局長轉任  
福島民報支局長清野庄十郎氏は今度該報新聞に入社、白河通信部勤務となり十五日午前十一時十分發で出發

## 世界を震撼させ

た五日間

蘇兵よ十萬の敵に抗して壯烈我が國民の生命と權益を死守した上海陸隊の偉業、昭和十二年七月陸隊に端を發した日露の戦火は忽ち國際都市上海に飛び、八月九日遂に大山中尉等の虐殺事件を生むに至つた。我が不擴大方針も支那側の不誠意を極めた態度に解決の曙光もみえず、事態はいよいよ險惡を加へる裡に八月十二日を迎へた。此の日陸隊本部の營座では二つの尊い犠牲者の葬儀が行はれた。葬儀の前に肅然と弔辭を讀み、今ではなき大山中尉の友、中尉であつた、弔辭を終へ、中尉の復讐の復讐を誓つた、中尉は直ちに武裝を整へ待機する一

## 市内人事錄

○出生 新川町三三高野芳太郎さん長男芳夫君、謙田町當時大阪市港區南區部決定さん長女貞子さん  
○死亡 新川町三三藤原一重さん(四一)、四軒町二鈴木茂子さん(四一)、銀治町二鈴木多利吉さん(六四)

## 天氣豫報

今晩は北東の風晴れたり曇つたり  
明日は北の風晴一時曇

## 齒科技工士

一名至急招聘

勤務先 東京某齒科醫院  
姓名在社  
電話四〇九

諸橋久太郎氏公認まで

同志のネバリが勝因 佐藤庄太郎氏談



起ち遅れの観あつた諸橋久太郎氏が多数先選を退場せしめて公認を獲得し、無競争裡に立候補するに至つた裏面には、同志の並々ならぬ努力があつた、以下諸橋派に参拠した元老佐藤庄太郎氏の経過報告である。

立候補を聲明した金成、大木、皆川、根本、諸橋の五氏中一番強いのは前回敗れた郡山の根本太郎氏であつた、爲に諸橋派は「根本派に合流することに依つてのみ勝算あり」との前提の下に、支部役員會の事前にあつて、數次に亘り兩派は會合し、根本派参謀星野謙諸橋派木村清治、關内正一兩氏が當り「根本、諸橋兩派は單一化して何れか一方に應援、最後まで争はぬこと」と原則的な協定成立してゐた、一方金成通氏は大木代吉氏と合流、必然的に根本諸橋派と對立の形で役員會に臨んだものである。

會津へ引込んで了つた。

表面的には根本、諸橋兩派は個々の主張を進めてゐたが、内面的には前述の如く原則的に一致の歩調を進めてゐた爲、大木派は相當努力を拂つたに拘らず、根本諸橋派には對抗を許さず、助川支部長、小野幹事長等も「大勢に應ずるより外なし」と兩派間を奔走候補者の單一化を説き、大木氏も又党内の抗争を避け自肅の意味で支部長に一任、助川支部長から形式的に先選金成氏を推し、金成氏病後の故を以て辞退、重ねて金成氏の指命に依つて諸橋氏を推薦、難産を豫想された政友派の公認も單一化に成功したのである。

此の間根本氏を説得して諸橋氏に譲るまでに、星野謙の斡旋は大きい力を爲してゐる。

今次の候補者は諸橋、大木、皆川と三名まで農銀重役であり、政治的に争ふことを遺憾とされてゐたが、相互の謙讓の美德に依つて單一化したことは、政治的には勿論、農銀關係から見ても喜ぶべき收穫であつた(カットは諸橋氏)

新皇軍武運長久 署中御伺申上候

警報時報社 社長、佐藤 作平 主幹、野澤 武藏 岡田 弘成 島田 春雄

新皇軍武運長久。署中御伺申上候 (一)

松本孫右工門 東京市下谷區谷中清水町	三井榮一 東京市葛飾區本田町立石	安藤七寶店 安藤善親	貴族院議員 金成通	衆議院議員 星一	平市長 青沼鋒太郎	平市農會長 諸橋久太郎	小名濱町長 小野晋平 縣會議員	平警防團長 關内正一 縣會議員
石城郡產馬畜産組合長 安島重三郎	大浦村長 木村清治	神谷村長 佐藤庄太郎	飯野村長 伊藤淺之助	植田町長 古川傳一	平製氷株式會社 專務取締役 松本一郎	三井吳服店 柏原幸次郎	福島縣齒科醫師會會長 萩原義雄	平病院長 醫學博士 鈴木定藏
山田村長 秋山藏之助	夏井村長 渡邊泰衡	玉川村長 宮内久枝	高久村長 本馬武	豐間村助役 山野邊茂五郎	好間村長 金成淺治	鹿島村長 志賀直哉	湯本町長 仲里顯太郎	江名町長 作山一枝
平市會議員 松崎松治	平市會議員 鈴木光吉	平市會議員 酒井清	平市會議員 多田井笑次郎	平市會議員 藤田榮助	平市會議員 吉田五平	平市會議員 鈴木彌太郎	平市會議員 大嶺庫	平市會議員 吉田寅之輔
吉村安治郎								